

統計とっとり

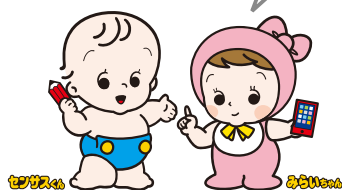
平成28年3月
第105号
鳥取県地域振興部統計課
TEL 0857-26-7665
FAX 0857-23-5033

統計課ホームページアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/toukei>

国勢調査 2015

国勢調査の「ビッグチャレンジ」 オンライン調査による インターネット回答率

スマートフォンを持った新キャラクター
「みらいちゃん」も登場！！



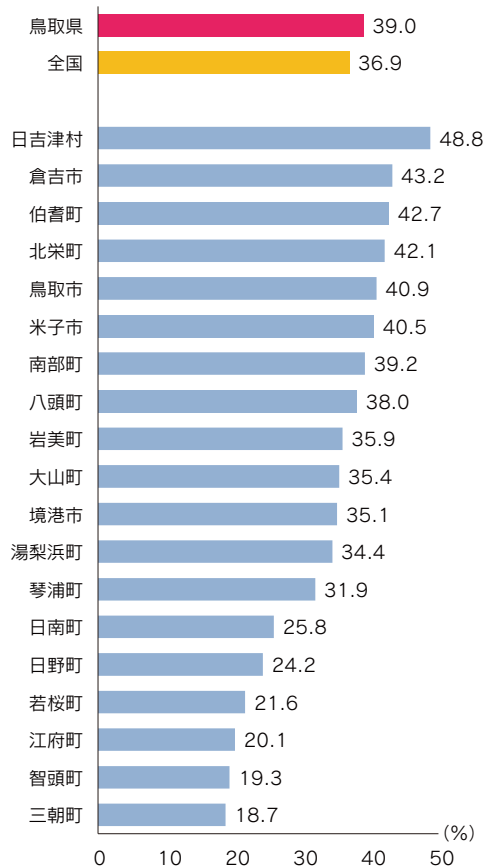
平成27年国勢調査は、我が国で初めて全世帯を対象としてオンライン調査が実施されました。

従来からある紙の調査票だけでなく、パソコンやスマートフォンからも回答できるとあって、その回答率が注目されました。

調査業務の手順が今までと大きく変わり、世帯へ足を運ぶ回数も多く大変だったと思います。皆さまのご尽力により、鳥取県のインターネット回答率は39.0%と全国平均の36.9%を上回る結果となりました。

オンライン調査の推進にご協力いただき、ありがとうございました。

平成27年国勢調査 インターネット回答率



8月9日
米子がいな祭りに参加



8月12日
日本海テレビの宣伝番組収録



8月14日
鳥取しゃんしゃん祭りに参加



国勢調査 2015

速報値が公表されました!

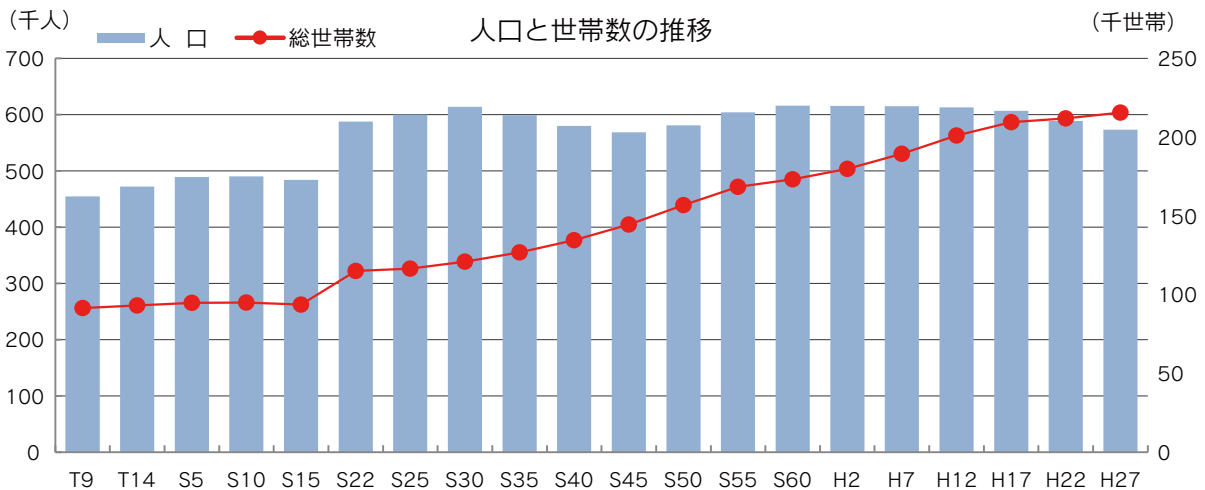


10月1日を基準日として行われた平成27年国勢調査について、平成28年2月26日に人口及び世帯数の速報値が公表されました。(平成28年10月に確報値が公表される予定です)

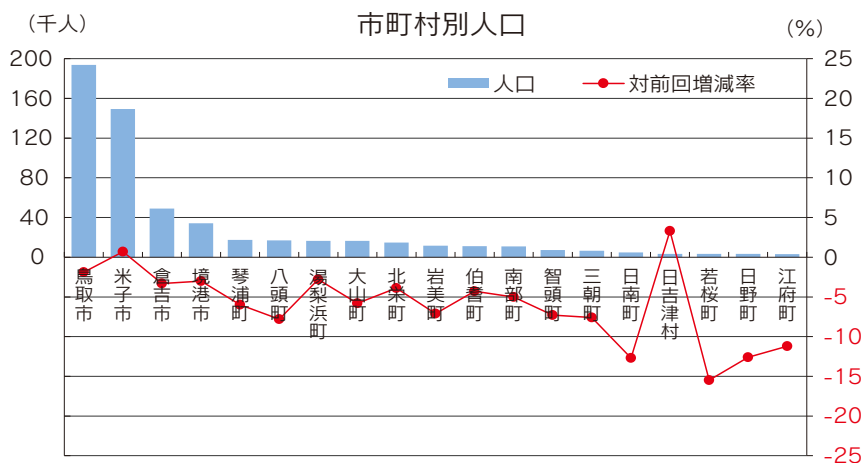
1 鳥取県の人口と世帯数の状況 — 人口の対前回比は2.6%の減少 —

鳥取県の人口は、573,648人で、前回(平成22年国勢調査)と比べ、15,019人(2.6%)減少しています。一方、総世帯数は、215,542世帯で、前回と比べ、3,578世帯(1.7%)増加しています。

		速報値	構成比	対前回(平成22年)増減
人口	総数	573,648人	100.0%	△15,019人 (△2.6%)
	男	273,756人	47.7%	△6,945人 (△2.5%)
	女	299,892人	52.3%	△8,074人 (△2.6%)
総世帯数		215,542世帯	-	3,578世帯 (1.7%)



2 市町村別人口の状況 — 1市1村で増加、3市14町で減少 —

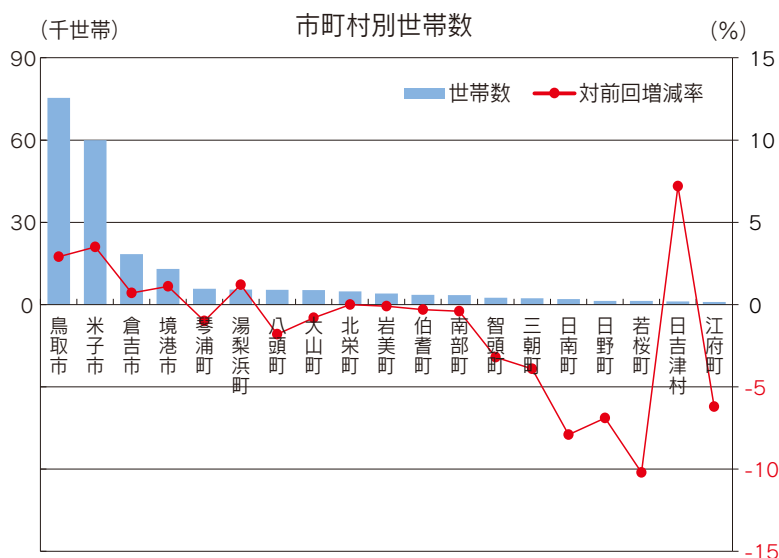


前回と比べ、人口の増加した市町村は米子市(1,111人増)と日吉津村(110人増)で、その他の市町村は減少しています。

また、増減率(対前回比)で見ると、若桜町(△15.5%)、日南町(△12.7%)、日野町(△12.6%)、江府町(△11.2%)の4町で減少率が10%以上となっています。



3 市町村別世帯数の状況 — 4市2町1村で増加、12町で減少 —



前回と比べ、世帯数が増加した市町村をみると、鳥取市(2,096世帯増)が最も多く、次いで米子市(1,960世帯増)、境港市(139世帯増)、倉吉市(119世帯増)となっています。

減少した市町村をみると、日南町(166世帯減)が最も多く、次いで若桜町(144世帯減)となっています。

また、増減率(対前回比)をみると、日吉津村(7.2%)が最も高く、若桜町(△10.2%)が最も低くなっています。

今後の公表予定

人口等基本集計・・・平成28年10月

人口、世帯、住居に関する結果及び外国人、高齢者世帯等に関する結果

就業状態等基本集計・・・平成29年4月

人口の労働力状態、夫婦、子供のいる世帯等の産業・職業大分類別構成に関する結果

世帯構造等基本集計・・・平成29年9月

母子・父子世帯、親子の同居等の世帯の状況に関する結果

人口予想クイズ ご応募ありがとうございました

各イベント会場や学校等で応募を働きかけ、鳥取県人口予想クイズを実施したところ、2,841通の応募がありました。

ぴったり一致されたかたはいませんでしたが、28人の差で人口を予想されたかたが2名いらっしゃったため、2名ともぴったり賞とさせていただきます。

入賞者の皆さま、おめでとうございます。



鳥取県統計調査委員会の皆さまが、国勢調査の広報活動を行っていただきました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。



9月8日
鳥取・倉吉駅、イオン日吉津店



9月26日
男と女のハーモニーフェスタ



統計出前説明会
(公民館、小学校など)



「登録調査員初任者研修」を開催しました

経験年数3年未満の登録調査員のうち、今後統計調査員としての活躍が期待されるかたを市町村の担当者に紹介していただき、初めて開催しました。

各会場とも少人数の研修とあって意見交換のしやすい雰囲気であり、参加者からは「具体的で分かりやすく、良い研修だった」などと好評を得ました。来年度も開催することとしています。

開催日

東部会場（県庁）	6月17日（水）
中部会場（県中部総合事務所）	6月19日（金）
西部会場（県西部総合事務所）	6月16日（火）

内容

1. 講義「統計調査に係る基礎的・実践的内容」
講師：県担当職員



- 統計の役割
 - ・統計の定義
 - ・統計を作成する理由
 - ・統計の種類
 - ・統計の利用
- 統計調査の仕組み
 - ・統計の日と政府統計統一ロゴタイプ
 - ・統計調査の区分
 - ・調査方法
 - ・基幹統計調査と一般統計調査
- 統計調査員の役割
 - ・統計調査員の仕事の流れ
 - ・統計調査員の身分と待遇
- 統計法規
 - ・統計法
 - ・個人情報保護法と統計法

講義内容の一部を紹介します。

<1 統計の役割>
1 統計の定義

統計とは

一定の条件(時間、空間、標識)で定められた集団について調べた結果を、集計・加工して得られた数値

例えば

- ・本やCDの売り上げ数
- ・野球の打率
- ・気象データ

意外と生活の中で「統計」に触れる機会が多いです。

<1 統計の役割>
3 統計を作成する理由

今を捉える 過去や他と比較する 将来を見通す

統計調査は原文の無駄遣いを減らすための先行投資。あなたの能力が活きるために...

<1 統計の役割>
4 「統計の役割」のまとめ

■統計と行政施策の関係を再確認しよう

◆社会や経済の状態を測るのが「統計」の役割。国や地域の様々な状態を正しく示す大切な情報として欠かすことのできないものです。

<2 統計調査の仕組み>
4 基幹統計調査と一般統計調査

「基幹調査の指定有り?無し?」

基幹統計調査とは
国が実施する統計調査のうち、行政施策推進や国民生活の把握のための基礎資料として不可欠である、重要なものとして国が指定した統計調査

一般統計調査とは
国が実施する統計調査以外のすべての統計調査

統計調査に対する国民の信頼を確保するため取り扱いは同じ

- 調査によって集められた情報に誤差は必ず存在する
- 集められた情報を、事例として、本来の目的である統計の作成に当り活用してはならない
- 集められた情報を適切に管理しなくてはならない

<4 統計法規>
1 統計法

統計法とは... 国が統計法を制定し、国が実施する統計調査の調査方法、調査項目、調査結果の公表方法等を定める法律。

統計法が改正されました!!

「行政施策の推進に資する統計調査の調査方法、調査項目、調査結果の公表方法等を定める法律」

<4 統計法規>
3 「統計法」のまとめ

調査実施の目的は行政施策の推進に資すること

調査結果の公表は行政施策の推進に資すること

この目的の達成が目的に達しない限りは調査結果の公表を抑制し、調査結果の公表を抑制すること

調査結果の公表は行政施策の推進に資すること

調査結果の公表は行政施策の推進に資すること

◆現在、基幹統計は55あり、うち20は、より正確な回答を得るため、調査員調査となっています。

◆統計調査員は、調査実施の都度任命される非常勤の公務員です。調査活動中に万一事故などに遭われた場合は

補償がなされますので、速やかに市町村や県の担当者に連絡をしてください。また、功績の大きな統計調査員には、大臣や知事から表彰が行われたり、勲章や褒章が授与されます。

2. 講義「統計調査結果の活用事例の紹介」

講師：県担当職員

○統計調査の活用

- ・ 社会における統計の役割
- ・ 主な統計調査の結果
- ・ 統計情報の利用

○身近な統計データ

- ・ 統計で見る人口、経済規模、家計

◆統計調査の現場において、調査の結果はどのように使われているのか、私たちの生活に本当に活かされているのかと問われることも多いと思われます。

この対応については、「統計」の利用が広範多岐にわたっており、いつ、どこで、誰が、どのように使っているのか、計りがたいこともあり、説明が難しいかもしれませんが、調査対象の世帯や事業所に上手く説明することができれば、統計調査の大切さや協力意識向上への説得力が増します。

～「総計調査員のしおり」より～

<1 統計調査の活用>

2 主な統計調査の結果から

■経済センサスー活動調査

目的 県内の産業・サービス業の事業活動及び企業活動の増減や産業構造の動向を把握し、県民生活の向上に資する。

□調査期

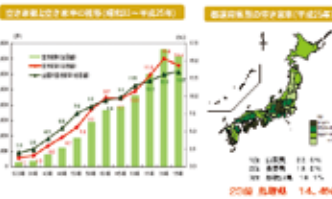
5年（最新調査：平成29年2月1日）/調査員調査

□行政施策への活用

経済政策	環境政策	雇用政策
・ 産業振興策 ・ 企業の集積地 ・ 産業振興策	・ 環境と産業の両立 ・ 環境と産業の両立 ・ 環境と産業の両立	・ 雇創出策 ・ 雇創出策 ・ 雇創出策

<1 統計調査の活用>

2 主な統計調査の結果から～住宅・土地統計調査～



3. グループ討議

助言者：八田加代子調査員（東部）、漆原文雄調査員（中部）、石門敏昭調査員（西部）

グループ討議は、助言者として平成26年度に登録調査員中央研修へ参加された経験豊かな調査員にお越しいただいて、自身の体験談などを紹介していただき、参加者の質問にも答えていただきました。また、参加者にも体験談を話していただきました。

参加者からは、「未経験の話を聞いて参考になった」「上手に調査活動を行う上での具体的なポイントを学べた」「悩みや困ったことを共有できた」などの感想をいただきました。

ベテラン調査員からの助言



- 調査依頼をする時は、調査先に合わせて内容を説明するよう工夫すると引き受けてもらいやすい。
(例：高齢者には「年金の算定に使われる」など)
- 個人情報の流出に敏感な調査先には、調査票が溶解処分・焼却処分されていることや、自分は絶対に情報を漏らさない、管理も徹底して行っているということを説明する。
- 調査先との約束を守り、誠実さを見せる。
- 近所に尋ねすぎず、留守の時にはメモを活用する。
- 仕事という意識を持って調査活動を行う。
- 初めに「役場（市役所・県庁）から来ました」と言うとお話を聞いてもらいやすい。

助言者の皆さま、貴重なお話をありがとうございました。



栄誉に輝く 平成27年秋の栄典

瑞宝単光章 つぼくら つとむ 坪倉 司 調査員（日南町）



平成27年の叙勲に際し、瑞宝単光章を拝受いたしました。

私が統計調査をさせていただくようになったのは、1960年2月の世界農林業センサス及び10月の国勢調査からでした。たまたま公民館で居合わせた担当のかたに依頼されたのがきっかけでした。

当時の日本は、戦後の混乱からやっと抜け出し活気を取り戻した時で、多くの若者たちは都会へ就職して出て行きました。残って農林業に携わっている人たちも、生産に一生懸命になっている時代でした。

日中はほとんどの人が外で働き、夕方でないとは帰ってきません。調査区内の人の家業の邪魔をしないように、主に夕方から夜にかけて、砂利道を自転車で伺っていました。

調査に何うと、「自分が言うから書いてくれ」と言われることもしばしばで、一晩に数世帯しか調査できないこともありました。

一番気を付けたのは、統計法の遵守はもちろんですが、調査区内の人の心証を害さないことです。それは、訪問時間の考慮から、個人情報聞き取り、そして、約束の履行でした。

その時代から55年経ちました。人口は当時の3分の1になろうとしています。大家族の家はほとんど無くなり、老人だけの世帯が増え、1人世帯もあるようになりました。

そして、人の考えも変わってきました。不審者と間違われまいにしなければなりませんし、訪問前に電話連絡が必要な家も増えました。その分、調査方法も随分と変わり、活字ばなれした今は、放送等で周知徹底することも大切だと思います。

長い間、統計調査に携わらせていただいたのは、調査区のかたがたのご理解と信用、そして官公庁のかたがたのご指導と信頼の賜と感謝している次第です。ありがとうございました。

また、今回の受章を機に、私にできることがあれば、少しでも皆さまのご芳情に報いたいと思っています。

平成27年度統計功労者表彰式・統計セミナー

平成28年1月26日(火)とりぎん文化会館において開催し、約65名のかたに参加いただきました。

統計功労者表彰式

統計に功績のあった調査員や事業所に対し、各省大臣表彰、鳥取県知事表彰が行われました。

各省大臣表彰は、総務省政策統括官付統計企画管理官付企画官市川宏氏から、鳥取県知事表彰は岡崎地域振興部長から伝達されました。

また、栄典を受章された坪倉調査員からメッセージをいただき、披露させていただきました。



統計セミナー

表彰式に引き続き、「国勢調査結果から見る今後の日本の姿～国勢調査は国家の存立を支える基盤情報～」と題して、市川企画官にご講演いただきました。

講演では、統計データはいつの時代でも政策判断に必要な不可欠なものであることや、過去の国勢調査の結果などのお話をいただきました。



受賞の皆様 おめでとうございます

(敬称略、順不同)

<総務大臣表彰>

労働力調査

調査員 鶴野 麻利江 (琴浦町)

小売物価統計調査

調査員 山崎 綾子 (鳥取市)

家計調査

調査員 森 協 真子 (松江市)

個人企業経済調査

調査員 赤坂 清志 (岩美町)

平成26年経済センサス—基礎調査

指導員 松本 知明 (倉吉市)

調査員 遠藤 和子 (米子市)

平成26年全国消費実態調査

調査員 爲平 さえ子 (湯梨浜町)

各種統計調査

調査員 近藤 由美子 (米子市)

調査員 澤田 春美 (琴浦町)

<厚生労働大臣表彰>

労働統計関係

事業所 サイン技術コンサルト株式会社 (米子市)

事業所 株式会社山陰放送 (米子市)

事業所 医療法人養和会 養和病院 (米子市)

事業所 社会福祉法人福生会 (三朝町)

調査員 三嶋 章代 (米子市)

<農林水産大臣表彰>

2015年農林業センサス

指導員 大久保 三枝 (鳥取市)

指導員 前田 典顕 (湯梨浜町)

調査員 漆原 健治 (鳥取市)

調査員 小椋 勝美 (倉吉市)

調査員 高橋 恵美子 (倉吉市)

調査員 中井 吉郎 (倉吉市)

調査員 本家 一郎 (若桜町)

調査員 遠藤 文夫 (三朝町)

調査員 千熊 一郎 (湯梨浜町)

調査員 米村 勝利 (琴浦町)

調査員 石門 敏昭 (日吉津村)

<経済産業大臣表彰>

構造統計

調査員 末吉 一幸 (米子市)

調査員 真住 勝美 (北栄町)

<経済産業省感謝状>

経済産業省所管統計調査

調査員 浜口 英子 (鳥取市)

調査員 松本 亮子 (境港市)

<鳥取県知事表彰>

鳥取県鉱工業生産動態調査

事業所 株式会社門永水産 (境港市)

事業所 山陰化成工業株式会社 (境港市)

永年従事調査員

調査員 秋吉 由紀子 (鳥取市)

調査員 戸田 勝也 (鳥取市)

調査員 三好 久恵 (米子市)

調査員 大羽 昌子 (倉吉市)

調査員 牧田 純江 (北栄町)

永年、統計調査員としてご活躍いただいている登録調査員さんにお話を伺いました!



今回お話を伺ったのは、米子市の坂田千恵子調査員です!
統計調査員を永年続けてこられて、どのようなことを感じておられますか?

私が初めて統計調査に従事した昭和59年当時は、まだ統計調査員会はなく、県市による研修会もありませんでした。“正しいデータをたくさん集める”という基本的な考えもなく、なんとか数をこなせば報酬がいただける位に考えて自分なりに手探りで工夫し調査したことを思い出します。

私は統計調査員を10年間続けた後、10年間のブランクを経て復帰したのですが、休んでいた間に統計調査員会が立ち上がり、県市の研修会も徐々に行われていました。今は、年間5、6回の研修会や講演会に参加しています。

調査拒否の世帯や居留守の世帯など、気持ちの折れそうなことも多々ありますが、その度に研修会で学んだことを思い出して、世帯のかたから理解と協力が得られるよう、気持ち新たに挑んでいます。

“人は自分を映す鏡”と言いますが、色々な人に出会い、円滑にコミュニケーションをとり、人生を豊かに生きていく……。そういう意味で統計調査員の仕事は“自分磨き”の仕事かもしれませんね。

今後もこの仕事をさせていただくことに感謝し誇りに思っ、さらに学び励みたいと思います。



平成28年度に実施される

統計調査（調査員調査）の一覧

(平成28年3月1日現在)

調査名・調査基準日	市町村委託分	県直接調査分										
	経済センサス活動調査	小売物価統計調査(動向編)	小売物価統計調査(構造編)	家計調査	労働力調査	個人企業経済調査	社会生活基本調査	毎月勤労統計調査(第一種)	毎月勤労統計調査(特別調査)	商業動態統計調査	鉱工業生産動態調査	
	6/1	毎月	隔月	毎月	毎月	毎四半期	10/20	毎月	7/31	毎月	毎月	
市町村												
鳥取市	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
米子市	○		○		○		○	○	○	○	○	○
倉吉市	○				○		○	○	○	○		○
境港市	○			○	○		○	○	○	○		○
岩美町	○	○					○	○	○			
若桜町	○						○					
智頭町	○						○					
八頭町	○				○		○					
三朝町	○				○		○	○				
湯梨浜町	○						○		○			
琴浦町	○				○	○	○	○	○			
北栄町	○				○		○		○			
日吉津村	○				○			○				
大山町	○				○		○	○				
南部町	○						○	○				
伯耆町	○				○		○	○				
日南町	○						○		○			
日野町	○											
江府町	○						○					

注1：○印は対象市町村を示す。



平成28年は社会生活基本調査が実施されます！

平成28年は、社会生活基本調査が実施されます。(基準日 10月20日)

この調査は、生活時間の配分や自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的として実施される調査で、昭和51年以来5年ごとに実施され、平成28年調査で9回目となります。さて、今年の調査によって、どのような県民の行動が明らかになるのでしょうか。結果の公表が楽しみです。

平成23年社会生活基本調査の結果から見た鳥取県
～趣味・娯楽の男女別、種類別行動者率(上位5位)～

